

「おばあちゃん どこいくの？」

作成：しおかぜ会（鶴見区認知症キャラバン・メイト、サポーター）

※このお話は、散歩に出かけたおばあちゃんが帰り道が分からなくて困ってしまうお話です。

<コタロウ君ちの紹介>

ぼく(コタロウ)
おばあちゃん
お父さん
お母さん
おねえちゃん(幸子)
犬のポチ
猫のタマ

※適宜、登場人物の名前を変更したり、
シナリオに手を加えたりしてお使いください。



絵：菅原美佐子

場面①(時計の針は 16:00)

夕方 4 時に、おばあちゃんはポチをつれて近くの公園にお花を見に出かけました。

おばあちゃん : 「ポチ、いい天気だから夕方になったけど、散歩に行こう。公園の花がとってもきれいなんだって。」

ポチ : 「ワンワン。散歩大好き。うれしいなあ。ワンワン。」

おばあちゃんもポチもうれしそうです。

場面②(時計の針は 17:30)

4 時に散歩に出たおばあちゃんが、5 時 30 分になったのに帰ってきません。

おかあさん : 「暗くなってきたのに、おばあちゃん遅いわね。いつも 1 時間くらいで散歩から帰ってくるのに、どうしたのかしら、心配だわ。2 人で捜しに行ってくれる？」

ぼく : 「おばあちゃん、どこに行っちゃったんだろう。」

おねえちゃん : 「本当にどこに行っちゃったのかなあ？じゃあ、2 人で捜しに行こう。おかあさん、捜しに行ってくるね。」

2 人は、おばあちゃんを捜しに行きます。

場面③(時計の針は 18:00)

おばあちゃんは、公園に咲いたたくさん花をゆっくりながめていたのですが、6 時になると周りが暗くなってきました。帰り道が分かりません。

おばあちゃん : 「大きな公園だから、暗くなってきたら帰り道が分からなくなってきたよ。こっちかな？ なんだかちがう。あっちかな？ ちがうようだね。困ったね、ポチ、家はどっちかね？」

ポチ : 「おばあちゃん、どこ行くの？ 家はそっちじゃないよ。こっちだよ。疲れたワン。」

ポチは、おばあちゃんを家に連れて行こうとするのですが、おばあちゃんはなかなか動かないのです。

場面④(時計の針は 18:15)

おばあちゃんが暗くなった道を歩いていると、コタロウ君の友達に会いました。二人は家までおばあちゃんを送ってくれることになりました。

コタロウ君の友達

ツトム君とタカシ君 : 「あれ、おばあちゃんとポチだ。おばあちゃん、幸ちゃんとコタロウ君が捜してたよ。どこ行くの？ おばあちゃんちはこっちだよ。一緒に帰ろう。」

おばあちゃん : 「暗くなったら、道が分からなくなっちゃってね。困ったね。じゃ、家まで連れて行ってね。」

ポチ : 「ツトム君とタカシ君が来てくれて、よかったワン」

三人は家に向かって歩き始めました。

場面⑤(時計の針は 18:30)

ツトム君とタカシ君がおばあちゃんと一緒に歩いていると、さっちゃんとコタロウ君が捜しにやってきました。

ツトム君とタカシ君 : 「さっちゃんとコタロウ君だ。おばちゃんよかったね。2人に会えて。」

幸子ねえちゃん : 「ツトム君とタカシ君、ありがとう。おばあちゃん、家に帰りましょう。ああ、よかった。」

ぼく : 「おばあちゃん、帰ろう。ツトム君、タカシ君ありがとう。前はこんなことなかったのに、どうしたんだろう。」

おばあちゃんは、それから何度も家がわからなくなりました。